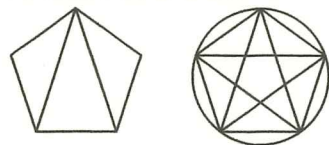


黄金の縁台 ~ペンタグラム~ 設置後のイメージ

正五角形は辺と対角線の比が黄金比になることと
対角線と対角線の交点は黄金比で分割されることから
「黄金の縁台」と名付けた



コンセプト

縁側の魅力の1つは、コミュニケーションが取りやすくなるという点です。縁側が家族の休憩スペース、ご近所との交流といった気軽なコミュニケーションスペースとして機能してくれる。本来持つ機能を活かし、人が集い、心を通わせ、繋がる場所となる縁台を目指す。

設置予定場所：新町川・助任川沿いの公園内



周辺環境（縁台設置予定の公園の説明）

◎徳島中央公園

旧徳島藩主蜂須賀公の居城跡に開設した公園。
本市中心市街地に位置している。
明治39年に開設して以来今日まで、身近なレクリエーションの場として親しまれ、その由来や位置等から市民に象徴的な存在として親しまれている。



期待される縁側の活用例

- ① 囲碁・将棋を楽しむ
- ② 川のせせらぎを楽しむ
- ③ 木漏れ日を味わう

◎藍場浜公園

徳島市内の中心を流れる新町川沿いにある。
4月には、はな・はる・フェスタが催され、お盆には阿波踊りの演舞場として利用されている。
11月には、徳島のふるさとの良さを体感してもらうことを目的とされた、ふるさとカーニバル阿波の狸まつりなどが開催されている。



期待される縁側の活用例

- ① 休憩場所として
- ② 交流の場所として
- ③ 情報交換の場所として



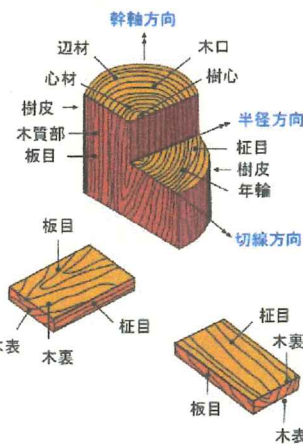
黄金の縁台 使い方

	一人で座る。 【内容】読書・休憩・食事
	二人で寄り添いながら座る。 【内容】デート・談笑・ソシャゲ
	角度を持って座る。 【内容】打合せ・井戸端会議
	跨いで座る。(向かい合って座る。) 【内容】囲碁・将棋・トランプ・デュエル

木取り

『木取り』とは、一本の丸太からどんな材をとるのか、どう鋸を入れるかを歩留まりよく考え、柱や板材などの様々な製品となる部材をとっていくこと。

【製材のポイント】
無駄なく1本の木から価値のある製品を挽くこと。節や木の目などを見て、どんな品質の材を取れるかを見極める。

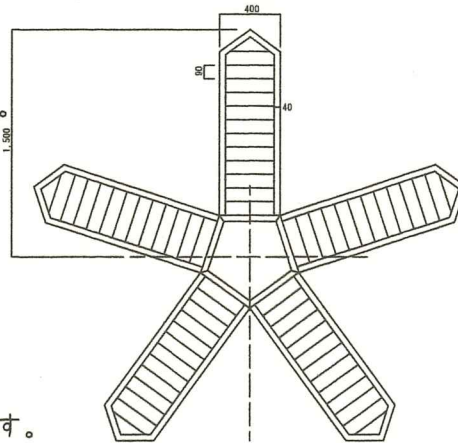


プラン1・2（平面図 1:500）

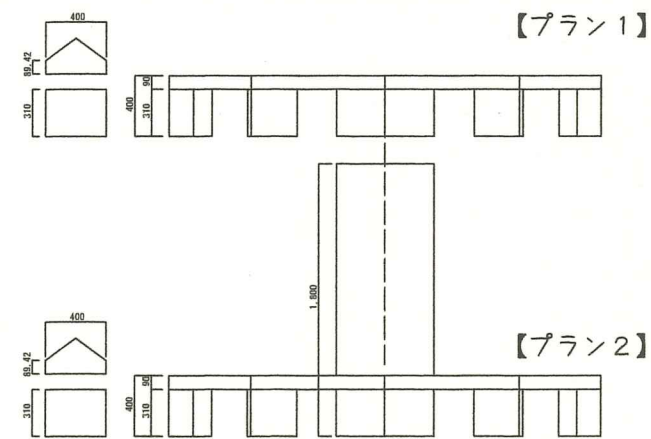
平面計画はプラン1と2は同じものとし制作の効率をはかる。

【プラン1】
縁台を五角形に組み合わせ合わせたもの

【プラン2】
縁台の中心部に灯籠の様な照明が入り、各縁台を暖かく照らす。



プラン1・2（立面図 1:500）



使用材料：「徳島すぎ」について

「徳島すぎ」とは1980年代からブランド化を図るために徳島県産の杉に付けられた商品名です。杉の天然林分布は、青森県から屋久島まで広い範囲で見られますが、徳島の風土とも相性が良いようです。徳島県の温暖多雨の気候と地質から、杉の適地が多かったことに加え、人々の生活や生産活動が開連し、杉植林地が拡大してきたのだと考えられています。また、「徳島すぎ」は優れた強度があり、これまで勤や経験で決められてきた部材の断面寸法を標準化した「徳島すぎスパン表」を作成し普及している。県産木造住宅の仕口・継ぎ手など接合部の強度性能を検証するなど、常に県産木造住宅の信頼性向上に努めている。

黄金の縁台~ペンタグラム~を設置することで...

黄金比は古来より人間が最も美しいと感じる比率として歴史的建造物や美術品をはじめ、近代ではデザインや写真の構図などにも取り入れられています。黄金の縁台を設置することで、ただ単なる休息の場になるだけで無く、自然と心地よい空間と感じ、つつい会話が弾んだり、趣味を満喫できることでしょう。縁台の持つ魅力・力を再認識するとともに、新たな縁台として、人が集い、心を通わせ、繋がる場所として日常の暮らしの中に広められるそんな縁台になったと考えます。